



男声合唱組曲  
「在りし日の歌」

米子  
早春の風  
閑寂  
骨  
また来ん春

作詩  
中原 中也  
作曲  
多田 武彦  
指揮  
河本 晴光

第50回リサイタルおめでとうございます。最近のいろいろな合唱をきいていると、「パート内のピッチが揃わないため、深く澄んだひびきが伝わってこないこと」「音楽における色彩とも謂うべきハーモニーを理解しないで歌うため、音楽のめりはりがないこと」「フレージングの変化を駆使しないため、詩の意味が聴衆に伝わってこないこと」「音の前処理や後処理が不揃いのため、アンサンブルが乱れてしまうこと」等々に基因する「騒音コーラス」が横溢しているのに気がきます。

こうした、「合唱に最低限必要な基礎的技術」を伝承しつづけて、毎年すばらしい合唱をきかせてくれる数少ない団体の一つが、関西学院グリークラブだと思います。昭和のはじめ、林雄一郎先生にその源を発するこの基礎的技術は、その後毎年の指揮者の個性とよく調和して、数々の名演奏をきかせつづけてくれました。小生なども、その恩恵に浴した一人です。これからこの伝統を崩すことなく、いつまでも正統的合唱演奏の極致を披露しつづけていって下さい。

演奏会のご成功と、今後ますますの発展を祈ります。

多田武彦  
作曲家